

## 「英語学/英語学 I (2014 年度後期)」：授業評価アンケート結果とその考察

英語教育専修・国際理解教育コース

「英語学/英語学 I」は、学校教員養成課程および総合人間形成課程国際理解教育コースの英語教員免許取得希望学生にとっての必修科目である。授業の目標、到達目標、授業概要についてはウェブ上のシラバスを参照されたい。DP の上では、学校教員養成課程、国際理解教育コース共に、DP1「... 得意とする分野の専門的知識を修得している(知識・理解)」に対応することが意図された授業である。

この授業は全ての回が担当者自作のワークシートに基づいて進められた。毎回の授業時に内容確認シート(出席カードを兼ねる)を用意し、学んだ内容を授業終了時に振り返ってもらった。内容確認シートは、採点した上で、必要があればコメントおよび質問に対する回答を添えて返却した(最終回授業時のものを除く)。成績評価には、持ち帰りワークシートを使用した。

授業評価アンケートの結果は以下の通りである(回答者数 22 名)。括弧内は、2012 年度の授業評価報告書で報告済みの 2012 年度のこの授業で行った授業評価アンケートの結果である(回答者数 21 名)。

A あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。(1. 全く意欲がわかかなかった: 0/22 (0/21); 2. あまり意欲的に取り組まなかった: 3/22 (1/21); 3. どちらとも言えない: 6/22 (4/21); 4. やや意欲的に取り組んだ: 11/22 (14/21); 5. 非常に意欲的に取り組んだ: 2/22 (2/21); 平均値: 3.545 (3.81))

肯定的な評価(4または5)をした学生数が 13/22 (59%)であり、2012 年度(16/21 (76%))と比べて大きく低下した。原因は明らかではないが、より多くの学生が意欲的に取り組める授業を行うことに努めていきたい。

B この授業で使われたワークシートについてお尋ねします。

B-1 全般的に言って、ワークシートの作業の難易度についてどう思いますか。(1. 非常に難しかった: 0/22 (0/21); 2. やや難しかった: 9/22 (2/21); 3. ちょうどよい: 8/22 (15/21); 4. 比較的やさしかった: 4/22 (4/21); 5. 非常にやさしかった: 1/22 (0/21); 平均値: 2.864 (3.10))

「ちょうどよい」の評価をした学生数が 8/22 (36%)であり、2012 年度(15/21 (71%))

と比べ半数近くまで減少した。また「やや難しかった」と回答した学生数が 9/22 (41%)であり、2012 年度(2/21 (9%))に比べて 4 倍以上に増えた。今年度の受講学生にとって、この授業のワークシートは難しいものであったことになる。基本的に同じワークシート・資料に基づく授業であっても、学生側の難易度についての感じ方が年度ごとに異なることを顕著に示す結果である。全てのワークシート・資料を通した体系性を維持した上で、部分的な修正を行うことは難しい作業であるが、年度ごとに微調整を行いつつ授業を展開することに努めたい。

B-2 ワークシートを通して学んだ内容およびそれに関連する担当教員の話しは、(難易度は別にして)あなたにとっておもしろい(知的好奇心をくすぐる、といった意味で)ものでしたか。(1. 全くおもしろくなかった: 0/22 (0/21); 2. あまりおもしろくなかった: 2/22 (0/21); 3. どちらともいえない: 5/22 (7/21); 4. 比較のおもしろかった: 14/22 (12/21); 5. 非常におもしろかった: 1/22 (2/21); 平均値: 3.636 (3.76))

肯定的な評価をした学生数は 15/22 (68%)であり、2012 年度(14/21 (67%))から大きな変化はなかった。ただし 2012 年度にはなかった否定的な評価(1あるいは2)が 2 名の学生から寄せられており、平均値も僅かに下がった。言語の規則性を科学的に考えることの面白さが伝わるような授業にする工夫を今後も重ねたい。

C この授業の担当教員に関してお尋ねします。

C-1 担当教員は、受講者にとってわかりやすい授業を行おうとする努力、工夫をしているように感じられましたか。(1. 全く感じられなかった: 0/22 (0/21); 2. あまり感じられなかった: 0/22 (0/21); 3. どちらとも言えない: 7/22 (3/21); 4. 比較的強く感じられた: 13/22 (12/21); 5. 非常に強く感じられた: 2/22 (6/21); 平均値: 3.773 (4.14))

肯定的な評価をした学生は 15/22 (68%)であり、2012 年度(18/21 (86%))に比べ、数値を下げた。否定的な評価をした学生はいなかったものの、平均値も低下した。上記 B-1 での評価が低下したことを反映している可能性もあるが、今後検討の余地がある。

いずれにせよ、授業をわかりやすいものにする努力を継続していかねばならない。

C-2 担当教員は、受講者の意見や疑問をくみ取り、そうした意見や疑問に真摯に答えようとしているように感じられましたか。

(1. 全く感じられなかった: 0/22 (0/21); 2. あまり感じられなかった: 5/22 (3/21); 3. どちらとも言えない: 6/22 (2/21); 4. 比較的強く感じられた: 6/22 (9/21); 5. 非常に強く感じられた: 5/22 (7/21); 平均値: 3.50 (3.95))

肯定的な評価をした学生数が 11/22 (50%)であり、2012 年度(16/21 (76%))から大きく低下した。また否定的な評価をした学生数が 5/22 (23%)であり、2012 年度(2/21 (14%))から増加した。原因は不明であるが(ただし B-1 および C-1 での数値の低下と連動する可能性はある)、次年度以降学生達の反応を見た上で、必要であれば授業の進め方の変更、修正について検討したい。

D 各回の内容確認シートについてお尋ねします。内容確認シートは、当該の回に学んだ内容を振り返ったり、理解を深めたりするのに有益だと思えましたか(2012 年度は未記入者 2 名)。(1. 全く有益には思えなかった: 0/22 (0/19); 2. あまり有益には思えなかった: 1/22 (0/19); 3. どちらとも言えない: 2/22 (3/19); 4. 比較的有益なように思えた: 16/22 (8/19); 5. 非常に有益なように思えた: 3/22 (8/19); 平均値: 3.955 (4.26))

肯定的な評価をした学生数が 19/22 (86%)であり、2012 年度(16/19 (84%))から大きな変化はなかった。ただし評価 5 の回答をした学生数が 3/22 であり、2012 年度(8/19)に比べて減少した。また 2012 年度にはなかった否定的な評価が 1 名から寄せられた。結果的に平均値も 2012 年度から下がった。ただし比較的肯定的な評価が多い項目であると見ることも出来るであろう。内容確認シートは平常点を算出する上で重要なアイテムでもあり、次年度以降も改善を加えつつ使用を継続して行きたい。

E 最終課題の持ち帰りワークシートについてお尋ねします。持ち帰りワークシートは、この授業で学んだ事柄あるいは考え方について、再度復習したり理解を深めたりするのに有益だと思えますか(2014 年度未記入者 5 名; 2012 年度未記入者 2 名)。(1. 全然有益ではない: 0/17 (0/19); 2. あまり有益には思えない: 1/17 (0/19); 3. どちらとも言えない: 1/17 (4/19); 4. 比較的有益なように思える: 8/17 (6/19); 5. 非常に有益なように思える: 7/17 (9/19); 平均値 (記入した 17 名に限定): 4.235 (4.26))

肯定的な評価をした学生数が 15/17 (88%)であり、2012 年度(15/19 (78%))より数値を上げた。平均値に大きな変化はなく、受講者が持ち帰りワークシートの内容にある程度納得していることを示すと言える。反面 2012 年度にはなかった否定的な評価が 1 名の学生から寄せられたのは残念である。最終課題には、成績評価という目的だけではなく、学習内容の整理・確認という目的もあるため、持ち帰りワークシートの充実に向けて今後も努力を重ねたい。

F あなたは、この授業を通して、外国語としての英語、母語としての日本語、あるいはより一般的に人間の言語が持つ規則性に興味・関心が向くようになりましたか(2014 年度未記入者 5 名; 2012 年度未記入者 2 名)。(1. 全くそういった興味・関心が持てなかった: 0/17 (0/19); 2. あまりそういった興味・関心が持てなかった: 0/17 (0/19); 3. どちらとも言えない: 1/17 (4/19); 4. そういった興味・関心をやや持つようになった: 10/17 (8/19); 5. そういった興味・関心を非常に強く持つようになった: 6/17 (7/19); 平均値 (記入した 17 名に限定): 4.294 (4.16)

肯定的な評価をした学生数が 16/17 (94%)であり、2012 年度(15/19 (78%))から数値を上げた。ただし未記入者が 5 名いたこともこの点に影響を与えたのかも知れない(興味のない人は回答しなかった可能性がある)。なお平均値にも大きな差が見られず、4 点以上を維持している。回答を記入した受講者に話を限定すれば、ある程度言語の規則性についての関心を掻き立てることが出来たと考えてよいだろう。

G 最後にこの授業全体を振り返って、何か一言

この自由記述に回答した学生数は 11/22 であったが、授業の内容および担当者の姿勢について否定的な評価を書いた学生はいなかった。

まとめ: アンケート結果から判断する限り、今年度の受講者にとって今年度のこの授業は、やや用いるワークシート・資料の難易度に問題があったようである(上記 B-1)。また授業担当者の努力についても、やや不足しているとの評価が出たとみて問題ないであろう(上記 C-1, C-2)。その反面言語の規則性についての興味をかき立てることにはある程度成功しているようであるが(上記 F)、上述の 2 点に関し、年度ごとの微調整が少なくとも必要であることを感じた。また授業時間外学習のあり方、可能性についても今後検討したい。